

特にリバモアの時代には、こうしたルールはまったく的はずれで誤ったものだと考えられていた。しかし、結局それが正しい戦略であることは、彼が成功を収め富を築いたという事実がはっきりと示している。

#### ・折り返すときの戦略を現代に応用する

時間を経ても相場は変わらず、株価は以前と同じようなパターンを繰り返す。このことはこれから示すチャートに、現代の相場環境にリバモアの戦略が当てはまることを見れば明らかだろう。

米株相場は、2000年3月以来ひどい弱気相場が続いたが、2003年3月半ばには終止符を打って好調な上昇トレンドに入った。3年間続いた下落のあとで、新たな先導株が新たな上昇トレンドをしっかりとリードしているのである。

今日でも、何人かのプロのマネーマネジャーが、かつてリバモアが先鞭をつけた戦略を実際に使用している。2003年3月の上昇期で新たに牽引役となった銘柄のひとつがストラタシス社である。

ストラタシス社は、コンピュータで作成した設計によって実物モデルを制作する三次元高速試作品製造装置を開発・製造・販売しているハイテク企業だ。同社は02年第4四半期には利益が81%、収入が13%伸び、好調なファンダメンタルズによって相場の先導役を務めている。03年第1四半期にはさらに素晴らしい業績を示し、利益は243%の伸び、収入は67%の伸びとなった。

図I・1は2003年1月から3月までのストラタシス株の動きを示したものだ。注意深いトレーダーならば、リバモアの戦略が教える重要な特徴を見て取ることができるだろう。彼はチャートではなくティックカーテップを使ったのだが、相場全体が力強い上昇トレンドにあるときに、彼の戦略を使ってどうやって好調な先導株をとらえられるかを、このチャートによって明瞭に示すことができる。

図I・1でリバモアの戦略を実行するとき、次の点がポイントとなる。

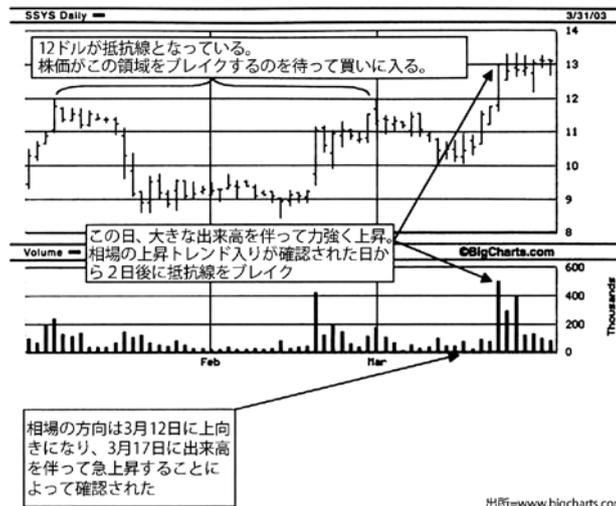
・相場が上向きになるのを待つ（2003年3月17日に相場の上昇トレンドが確認された）

- 確実な先導株はじつと見守り、利益が伸びるままにする
- 株価が予想どおり値上がりして利が乗ったポジションについては、増し玉の戦略に従って株を買い足す
- 持ち株と相場全体が予想どおりに動くかぎり、目先の利益確定の誘惑に負けず、じつと待つ

図 I・2 は、4 月以降の 3 カ月間におけるストラタシスの株価変動で、リバモアのほかの主要ルールがどのように適用されるかを示している。これを見ると、この新たな先導株に対して、リバモアの次のような戦略を使って利益を伸ばしていた。

- 新たな先導株が抵抗ラインをブレイクアウトするのを見つける（ストラタシスが 3 年以上の間、達成できなかった 13 ドルを付けた）
- 株価が抵抗ラインをブレイクアウトするとき、買い需要の確認という点で出来高が大事な役目を果たす

■図 I-1 ストラタシスの日足(2003年1月～3月)



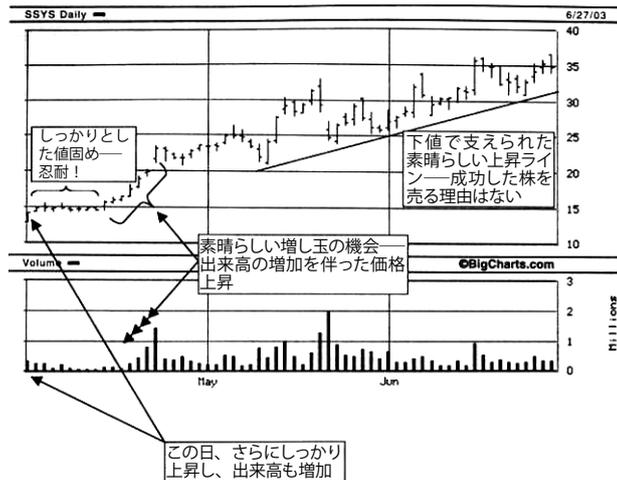
2003年3月21日にストラタシスを終値の13ドルで買って、34・58ドルで引けた6月30日まで保有したとすれば、166%のリターンが得られた。大切なのは、必ず相場全体が上昇トレンドに入ったのを確認するまで待つことである。

実際、ナスダック（上昇トレンドを確認するための有力な指数）は、3月12日に出來高の増加を伴いながら7・7ポイント高の1279・23ポイントで引けており、重要な反転の兆候を示していた。すぐその翌日には61・54ポイント高の1340・73ポイントと急騰し、出來高もさらに急増した。これで相場の強さが裏づけられた。

次の日には0・45ポイント安とわずかな押しが入った。前日の大幅高からすれば、この押しは積極的な意味を持つものだった。次の立会日（5月17日月曜日）には51・95ポイント高と一層大きな上げ幅を示し、出來高も拡大を続けた。ダメ押しともいべき動きだ（第5章で上げたオニールによる相場の確認の動きの評価を参照）。

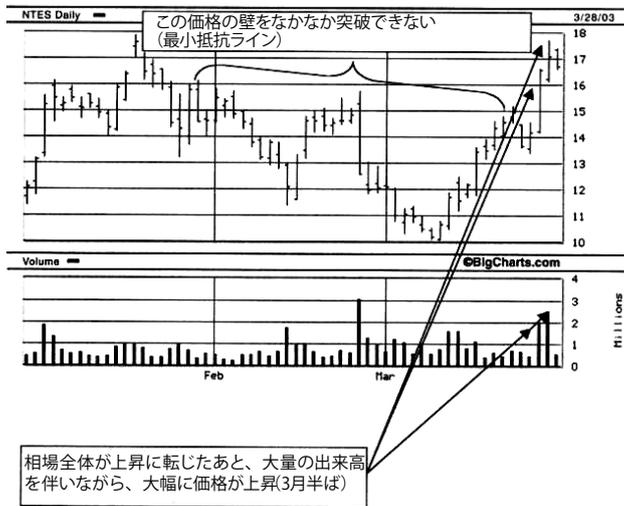
ナスダック指数は2003年3月11日の安値1271・46ポイントから6月30日の終値1622・80ポイントまで27・6%の上昇を見せた。その後も市場は上昇トレンドを続け、ストラタシスとナスダックはさらに上値を追った。

■図 I-2 ストラタシスの日足(2003年4～6月)



出所=www.bigcharts.com

■図 I-3 ネットイーズの足足(2003年1~3月)



出所=www.bigcharts.com

同年9月30日には、ナスダックは1786・93ポイントをつけ、3月11日の安値からの上昇率は40・5%となった。一方、同日のストラタシスの終値は42・62ドルで、3月17日のブレイクアウト・ポイントから227・9%値上がりした。

上記と同じ時期、その上昇トレンドに乗って大きく値上がりした別の先導株がある。ネットイーズ・ドットコムだ。ネットイーズは中国のインターネット関連企業で、中国のインターネット市場向けのアプリケーションやサービス、技術を開発・提供している。

中国経済は急速な成長を遂げつつあり、消費者の多くがインターネットに接続している。ネットイーズのADR(米国預託証券)はナスダック市場で取引されており、ネットイーズを含むインターネット関連企業はこの上昇トレンドで先導的役割を担った業種のひとつだ。図I・3、図I・4を見ると、ストラタシスと同様の分析がここでも当てはまるのが分かる。

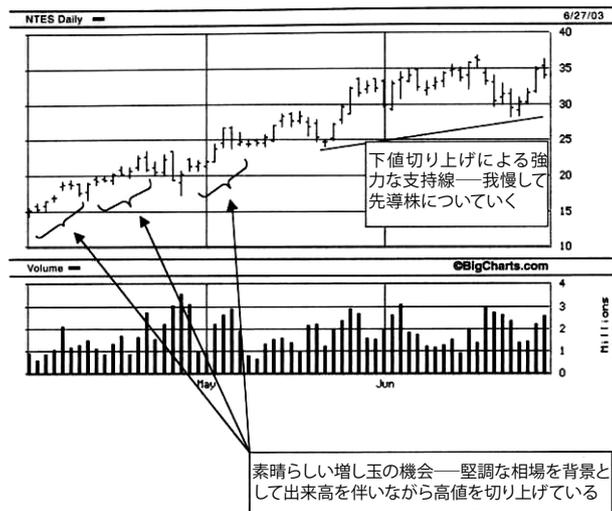
ネットイーズの場合も、ストラタシスに似たパターンが現れている。やはり、相場全体が見事な上昇トレンドを開始した直後に、大量の出来高を伴いながら抵抗領域を

ブレイクしているのである。ファンダメンタルズも極めて好調だった。02年第4四半期は、利益が207%、収入が815%増加していた。03年第1四半期は、利益の伸びが486%、収入の伸びは392%だった。明らかにネットイーズは、成長途上にある市場セクターの活力溢れる企業だった。上昇トレンドのなかで、有力な機関投資家もこの新たな先導株に注目を集め、買い付けを増やした。

もし2003年3月26日に同社を16・60ドルで買っていれば、36・47ドルを付けた6月30日には119・7%の値上がりを楽しんできた。9月30日には55・86ドルとなり、3月のブレイクアウト時点からみて236・5%の値上がりとなった。

追って述べるほかの大トレーダーからも分かるように、彼らのほぼ全員がリバモアの戦略とルールを踏襲している。そして、そのおかげで株式市場で成功を勝ち得ているといえるのだ。

■図 I-4 ネットイーズの日足(2003年4～6月)



出所=www.bigcharts.com